

概要

- 令和4年10月に農林水産省から、飼料用米について、専用品種を重点的に推進する方針が示された。
- 早生の飼料用米として、本県の主流であったコシヒカリに代わり専用品種「ふくひびき」の普及性の確認を行うとともに、種子の県内確保に取り組んだ。
- その結果、コシヒカリと同等以上の収量性と耐倒伏性を持つことから、非常に高い普及性があると判断し、県内生産に適した栽培暦を作成、さらに県内産種子および県外種子の確保を調整した。

具体的な成果

1 連携体制・方針の決定

- 現状の確認と代替品種の決定
 - ① 令和6年度以降の水田活用直接支払交付金の減額に緊急対応検討会の開催（行政課、普及、研究、JA、米麦協会など）
 - ② 小規模生産者の半数は、早生のコシヒカリを飼料用米として栽培早生品種「ふくひびき」に決定



R5年 展示ほ



R5年産の草姿比較

2 ふくひびきの生産性確認と生産拡大の準備

- 展示ほ場を設け、非常に高い普及性があると判断コシヒカリと同等以上の収量性と耐倒伏性を確認
- 採種ほ場（83a）を設け、県内種子約65ha分を確保さらに、県外種子（福島県産）も確保

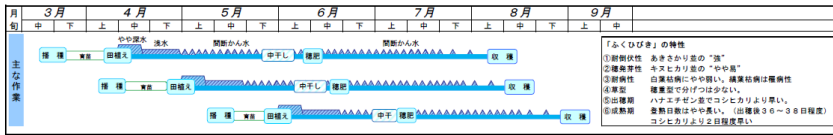
R5年産の収量比較

品 種 名	稈 長	穂 長	収 量
ふくひびき	67.5cm	18.8cm	591kg
コシヒカリ	80.5cm	19.5cm	490kg
ハナエチゼン	67.3cm	17.3cm	519kg

3 技術指導と推進活動

- 県内生産に適した栽培暦を作成し、交付金制度の変更と合わせ、水稻講習会等で、生産者に広く周知
- 令和6年の種子販売実績は、2760kg（約70ha分）であり、導入が進んでおり、また、県内7か所に展示ほ場を引き続き設置

令和6年 飼料用米「ふくひびき」栽培ごよみ



栽培暦（一部抜粋）

普及指導員の活動

令和4年度

- 水田活用直接支払交付金の見直しにともない、飼料用米の専用品種を選定、種子の確保を開始
- 検討会を緊急開催（12月～3月に6回）
品種：研究成果から徳島での多収性確認済みで、種子確保可能な専用品種を選定
種子確保：転用種子の採種ほ場を準備。買取り方法・価格等を関係機関と調整

令和5年度

- 「ふくひびき」の展示ほ7ヶ所と、採種ほ場を設置
- 展示ほの現地検討会・指導班会を開催し、関係機関に周知
- 徳島県に合った栽培暦を作成し、生産者へ周知

令和6年

- 引き続き、展示ほ場を設置し、施肥試験中
- 採種ほ場も引き続き設置



検討会の様子

普及指導員だからできたこと

- ・ 進んでいた交付金の活用・水田の有効活用を滞らせることのないよう、普及員が生産者の不安に寄り添い、早急かつ的確な対応をしたことで、産地維持を可能とした。
- ・ 飼料用米栽培に携わる関係者を普及員がコーディネート力で組織化し、運用することで早期対応につなげた。

徳島県

飼料用米「ふくひびき」の普及に向けて

活動期間：令和4年度～継続中

1. 取組の背景

令和4年10月に農林水産省から、今後の米政策の方向として、飼料用米については、専用品種を重点的に推進する方針が示された。この方針にともない、飼料用米専用品種以外は、水田活用直接支払交付金が、令和6年度以降に減額されることが判明した。

本県では、本交付金を活用して飼料用米の生産に取り組んでいる生産者の多くは、コシヒカリなど主食用品種を飼料米として栽培し、経営の安定につなげていることから、早急な対応が必要となった。

2. 活動内容（詳細）

県下全域の水稲経営体を対象に、関係機関と連携し、コシヒカリに代わる早生の飼料用米専用品種として「ふくひびき」の普及性の確認を行うとともに、令和6年用種子の県内確保に取り組んだ。

<連携体制・方針>

内部打合せを重ね、連携体制や解決の方向性を決定し、検討会につなげた。

→ 連携体制：行政課、普及、研究、JA、関係機関(米麦協会など)

<検討会の開催>

連携機関を集めた検討会を開催し、対応策を協議した。

- ① 品種選定の方針：コシヒカリに代わる早生専用品種の選定が必要との結論。
- ② 専用品種の選定：「ふくひびき」を選定。研究課のデータと種子確保の可能性をふまえ選定。

- ③ 6年種子の確保：県外確保が困難であることから、県内生産で調整。

<現状把握> [普及・JA]

早生品種のニーズを把握するため、県南JAから聞き取り調査を実施した。

→ 小規模生産者の半数は、主食用品種を飼料用米として栽培

<展示ほ場の設置>

7か所（小松島市、吉野川市、美馬市、阿南市、美波町、海陽町2か所）に「ふくひびき」の展示ほ場を設置し、県内での適性を調べた。[普及]

→ 得られたデータを基に栽培暦を作成 [高度・研究]





令和6年 飼料用米「ふくひびき」栽培ごみ

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
播種												
生育												
収穫												

栽培管理のポイント

項目	内容
播種時期	4月下旬～5月上旬（早生型） 5月下旬～6月上旬（中熟型） 6月下旬～7月上旬（晩熟型）
播種量	10aあたり15kg～20kg（播種機による） 10aあたり20kg～25kg（手作業による）
播種方法	条播（幅10cm） 撒播（条間10cm）
播種深度	2cm～3cm
播種後処理	除草剤散布（播種後1週間以内） 追肥（播種後2週間以降）
生育管理	水管理（播種後1週間以内は乾かし、その後水管理） 除草（播種後2週間以降）
収穫時期	9月下旬～10月上旬（早生型） 10月下旬～11月上旬（中熟型） 11月下旬～12月上旬（晩熟型）

< 種子の確保 >

J A美馬（水稻種子生産組合）に採種を依頼し、令和6年用の採種は場を設けた（83a、確保目標3t）。
〔行政課・JA・米麦協会〕
新しい品種であるため、現地検討会および指導班会を開催し、関係者で品種特性を共有した。
〔高度・研究・普及〕



< 推進活動 > 〔普及・研究・高度〕

水稻講習会等で、交付金制度の変更と合わせ、栽培暦を用い生産者に広く周知した。

3. 具体的な成果（詳細）

< ふくひびきの調査結果 >

- ・ 稈長が短く、収量が多い
 - ・ 収穫時期はコシヒカリと同じ
- 評価：コシヒカリに代わる早生の飼料用米専用品種として、非常に高い普及性がある

品 種 名	稈 長	穂 長	収 量
ふくひびき	67.5cm	18.8cm	591kg
コシヒカリ	80.5cm	19.5cm	490kg
ハナエチゼン	67.3cm	17.3cm	519kg



←ふくひびき
コシヒカリ→

＜ 種子の確保 ＞

J A美馬（水稻種子生産組合）で、2,580kg（約 65ha 分）の令和 6 年用種子
を確保することができた。令和 6 年 2 月には、県南 J Aを中心に予約で完売
となった。

さらに、不足分は、県外種子（福島県）の調達を調整した。

＜技術指導体制＞

栽培暦を作成したことから、J Aと地域支援センターが、生産者に対して
スムーズに技術指導を行えるようになった。

＜ 導入の効果 ＞

引き続き、水田活用直接支払交付金を活用した経営の安定化が図られる。

水稻の組み合わせの幅が広がり、経営面積の拡大が可能になる。

増収による所得向上も期待できる。

4. 農家等からの評価・コメント（海陽町 青山氏）

- ・台風（7 号 8/15 接近）にあっても、倒伏しなかったので良いと思う

5. 普及指導員のコメント（高度技術支援課 主席 小牧和仁）

- ・県南の早期地帯では 8 月中旬から用水の水が止められるので、ふくひびき
は期待できる

6. 現状・今後の展開等

令和 6 年の種子販売実績は、2,760kg（約 70ha 分）であり、コシヒカリか
らの変更が進んだ。また引き続き、県内 7 か所の展示ほ場と合わせ県研究担
当でも、多肥による増収確認を行っており、早期多収量の飼料用米として、
ふくひびきの定着を進めていく。